

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなつてやってきました

女性が彩る観光まちづくりチャレンジ事業

「ディスプレイ & 魅力的な商品へ」講座開催のお知らせ

町では、宮城県市町村振興総合補助事業を活用し「女性が彩る観光まちづくりチャレンジ事業」として“女性がうれしい南三陸町へ”をテーマとしたワークショップやセミナーを開催しています。12月は、仙台から光のカラーアーティストとして活躍している千葉ひろみさんを講師に迎え、店頭でのディスプレイや魅力的な商品作りについて学びます。

色彩や癒しの空間作りを通し、感性を高めていくワークショップですので、関連業種の方に限らず、興味のある方は気軽にご参加ください。

■日時 12月8日(水) 午前10時～午後3時

■場所 南三陸商工会 2階会議室

■内容 ①ワークショップ「ディスプレイ & 魅力的な商品へ」
②フィールドワーク「心地良い空間作り」(汐風カフェで行う予定です)

■参加費 無料

※予約制となっていますので、参加を希望される方は12月6日(月)まで申し込みください。

※フィールドワークでは五日町商店街からおさかな通りを歩きます。

※昼食は、各自で持参してください。

■申し込み・問い合わせ 産業振興課観光振興係



カラーアーティスト
千葉ひろみさん



千葉さんの作品
(ウィンドウディスプレイ)

おすばでダンサーズ募集中!

「おすばでサンバ」は、子どもから大人まで楽しめるダンスで、年末の恒例イベント「おすばで祭り」をさらに盛り上げるために昨年制作し、地域でも徐々に広がりを見せています。

現在、12月29日(水)に開催される第20回おすばで祭りの会場で踊ってくださる「おすばでダンサーズ」を募集しています。経験者はもちろんのこと、おすばでサンバを踊ったことがない方も大歓迎です! 年末はサンバのリズムで盛り上がりましょう!

■応募条件

- ・年齢、性別は問いません。みんなで楽しく踊ってくださる方。
- ・おすばでまつり以外にも、イベントなどで一緒に踊ってくださる方。
- ・「おすばでサンバ」を広めてくださる方。

※練習を希望する方には事前練習日を設けます。

■申し込み・お問合せ 産業振興課観光振興係



昨年のおすばで祭りでの様子

南三陸時間旅行サポートセンターからのお知らせ

民泊の受け入れ家庭を募集しています!

南三陸時間旅行サポートセンターでは、来年度受け入れ予定の教育旅行について準備を進めています。現在、約100軒のご家庭に、子どもたちの民泊を受け入れていただいておりますが、今後のお客さんのニーズに応えるためには、少なくともあと50軒ほどの登録が必要になります。

民泊事業の詳しい内容などは、ご要望があれば担当者が説明に伺いますので、ご協力をいただける方は、気軽にお声掛けください。

■問い合わせ 南三陸時間旅行サポートセンター (一般社団法人南三陸町観光協会内)



庄内の風^{⑤1}

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

ご飯のおともにおすすめです

庄内の家庭で親しまれてきた伝統食のひとつに、「しょうゆの実」があります。

しょうゆの実は、醤油を製造する過程で、液体を絞り出す前のもの。庄内地方では、おばあちゃん達がそれぞれの家で作り、食べていました。温かいご飯に添えたり、乱切りにしたナス・キュウリなどにまぶして一夜漬けに、また、肉や野菜の炒め物などの調味料としていただきます。大豆の歯ごたえが残り、しょうゆよりも甘みがあって、まるやかな風味なのが特徴。素朴でどこか懐かしく、なんと



もいえない味わいです。

庄内出身の作家、藤沢周平氏も好んだという「しょうゆの実」(『凶刃〜用心棒日月抄』に、庄内藩がモデルとなった架空の藩「海坂藩」の庶民の食べ物として出てきます。)は、「食べるラー油」に続く新たな“食べる調味料”として、テレビや新聞などでも取り上げられ、にわかに関心を集めています。ぜひ一度、ご飯のおともとしてお試しください。

◇問い合わせ

株式会社イグゼあまるめ

☎0234-42-3040 <http://www.exeamarume.co.jp>

おいしい山形プラザ <http://oishii-yamagata.jp>

夢大使 リレー通信^{⑤3}



夢大使
小野寺 祐夫さん
(東京都)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、新メンバーで戸倉宇綱木沢出身の小野寺祐夫さんです。

南三陸町の皆さん、お元気ですか。この広報が皆さんの手元に届く頃は、本格的な冬に入ります。本年7月から夢大使を仰せつかり、この夏、佐藤町長を囲んで東京地区在住の夢大使の皆さんとお会いしました(広報みなみさんりく8月号参照)。これが私にとって南三陸町へのはじめの「通信」となりますので、今回は、故郷から上京することになった「いきさつ」を述べたいと思います。

思い起こすと、「日本は国土が狭いから、南米で新天地を開拓したい」と綴ったような気がします。この作文が担任教師の目にとまり、上手なおだてにのせられ、校内新聞に掲載することになりました。「社会科、特に、地理が大好き」と「狭いと考えた日本」からの連想でした。後年、この作文の内容が国の海外協力事業と個人的な海外学術交流に活かされました。

高校入学直後、「チリ津波」が志津川湾を襲い、我が家も漁具及び小船を失いました。日本から見ると地球の裏側で起こった地震の影響でした。この復興事業として湾内の護岸工事が急ピッチに進み、柔道部部員の体力を買われて夏、冬そして春休みの期間中、建設作業員として働きました。仲間とのコミュニケーション能力、忍耐力及び持久力の鍛錬が培われたと思っています。3年生の春から、就職活動と大学進学を同時に進めました。夏、進学コース雑誌に奨学金支給の記事を見つけて応募したところ、秋に、運命を変え幸運に恵まれました。私立大学1年分の授業料相当分の小切手をいただいたのです。高3の担任及び数学担当の先生方に相談し、数学と英語が苦手でも何とかなるだろうと浅はかに考え、卒業式の翌々日に上京し、今日まで生きてきました。考え込むより、まずは行動がモットーです。以上、故郷から上京するまでの簡単な「いきさつ」を述べました。故郷での様々な「出会い」、「経験」及び「運命的な出来事」が、その後の人生においても続きました。